

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE京都-新築 (2011年版) | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新設高等学校(京都市地区)	階数	地上2F
建設地	京都府京都市	構造	RC造
用途地域	第一種低層住居専用地域 準防火地域	平均居住人員	530 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,400 時間/年
建物用途	学校, 集会所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年1月 予定	評価の実施日	2013年5月28日
敷地面積	16,472 m ²	作成者	(株)環境デザイン研究所
建築面積	4,385 m ²	確認日	
延床面積	7,918 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.0 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 79%
③上記+②以外の 71%
④上記+ 71%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.2

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> 敷地が低層の住宅街の中にあることから、建物を地上2階建てとし、屋根を切妻とすることで周囲の街並みに配慮する外観を計画した。 敷地内にある既存建物を有効活用しながら施設の配置計画を行った。 既存樹木を極力保存しながら生垣や中高木を植樹を行う植栽計画とした。 	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 敷地が第一種低層住居専用地域のため、騒音、視線、日影への配慮から隣接する住宅地から建物を極力離す計画とした。 建物高さやボリュームを抑え、切妻屋根にすることで周 	
<p>Q1 室内環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 普通教室の開口部を大きく開け、昼光率を高くしている。 軒を出し、カーテンと併用し、昼光を制御している。 使用建材は全てF☆☆☆☆、対象外のものとし化学汚染 	<p>Q2 サービス性能</p> <ul style="list-style-type: none"> 普通教室の天井高さを2.75mとし、開放感のある室内環境を計画した。 設備機器は地上部または建物屋上に設置し、将来の更新、増設に対し、十分なスペースを確保している。 	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <ul style="list-style-type: none"> 景観地域内であるため、市の認定をうけている。 カフェテリア、和室を設け地域住民に開放を計画している。 カフェテラス、中庭、屋上テラスなどを設け室内外の中
<p>LR1 エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電パネルを積極的に導入することで、CO₂排出量を大幅に削減している。 建物の外壁、窓の断熱、遮熱性能を高め建物熱負荷を抑制することで、設備システムの高効率化を実現している。 	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <ul style="list-style-type: none"> 雨水を雑排水に利用することで節水に配慮し、断水時の対応も可能としている。 敷地内に既存建物があり、継続し利用可能としている。 使用建材は全てF☆☆☆☆、対象外のものとし化学汚染物質を極力少なくする。 	<p>LR3 敷地外環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ボイラーなど燃焼設備を持たないので、敷地内から大気汚染物質が出ない。 駐車場、駐輪場、管理用の駐車場を適切に設けている。 屋外広告、グラウンド照明など設置していないので、敷地外へ光が漏れることは無い。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される